

小豆島町 × 南島原市

姉妹都市盟約締結



南島原市と小豆島町は、10月27日(日)に香川県小豆島町サン・オリーブにおいて姉妹都市盟約の調印式を行いました。

今 から375年前の島原の乱後、香川県小豆島から多くの祖先が南島原へ移住したと言われていました。この縁をもとに昭和56、57年に、南有馬町と内海町（現在は合併して小豆島町）が互いの町を訪問し交流を深めました。特に昭和57年の南有馬町の豪雨災害時には、内海町から義援金と災害復旧のための技術者2人が派遣され、1カ月間応援を受けました。これらの交流を経て、昭和58年3月に南有馬町と内海町は姉妹町盟約を結びました。姉妹町となって今年で30年。この節目の年の記念と、合併して誕生した南島原市と小豆島町が、今後も将来にわたっての友好と交流を誓い、姉妹都市の調印を行いました。

今 回の調印式には、藤原市長を加え募った市民など、南島原市訪問団総勢40人が参加。参加者らは、祖先のルーツを感じ、私たちはつながっているという思いを深め、喜びと感激に包まれていました。

訪問団は、口之津町出身の観光ガイドの案内のもと島内を視察し、夜の歓迎レセプションでお酒を酌み交わしながら小豆島町民との交流を深めました。来年2月23日には小豆島町から訪問団が来られる予定です。

小豆島ツアー参加者の声



「私のルーツは小豆島に決めた！」

松尾 智子さん(南有馬町)

小豆島町に行ってみようという願いが叶って参加させていただきました。そして帰りのバスの中では、真実はどうであれ、私のルーツは小豆島に決めた！と思えるほど、本当にいい旅でした。光も音も景色も南島原市と似ているようだと感じたり、そうかと思うとたくさんの果実をつけたオリーブの樹々がとても新鮮だったり。一緒にオリーブの島に上陸した皆さん、本当に楽しい時間をありがとうございました。



「小豆島との関係を学んでいきたい」

八木 正勝さん(北有馬町)

約40年ぶりに訪れた小豆島は、前回と同様穏やかで美しく、海の色も暖かく澄み渡っていました。また、小豆島町長はじめ町の方々の温かい歓迎に触れ、自分のルーツがまさしくここにあることを再認識した旅でした。この旅を機に、当家に伝わる資料などを整理し、小豆島との関係などをさらに学んでいきたいと思っています。参加させていただきありがとうございました。

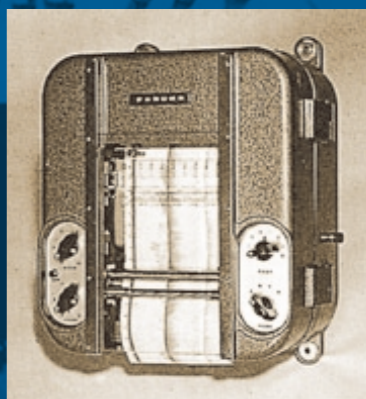
世界の漁業、海運業の科学化・近代化に多大なる貢献

南島原市 名誉市民 古野 清孝さん 逝去



名誉市民で古野電気株式会社の名譽会長、古野清孝さん(92歳)が、去る10月4日にご逝去されました。

古野清孝さん、弟の清賢さんは昭和13年に南有馬町(現南有馬支所付近)で、ラジオの修理業を始めました。その後、口之津町に事業所を移し、古野電気商会を設立。以来、苦節10年、世界で初めて魚群探知機の開発と実用化に成功しました。これを機に、昭和23年合資会社古野電気工業所を設立。漁業の科学化・近代化を自らの使命として、常に斬新な発想により新たな製品開発に取り組み、船用電子機器分野における世界のトップメーカーへと成長させました。



初期の魚群探知機

清孝さんは、魚群探知機の成功にとどまることなく、数々の超音波機器の発明、改良研究に努められました。それらの功績が認められ、昭和42年に47歳という異例の若さで紫綬褒章を受章されました。その他には、科学技術庁長官賞、紺綬褒章、運輸大臣表彰、勳三等瑞宝章など、数々の賞を受賞されています。

本市との関わりに触れると、旧南有馬町から平成17年12月に南有馬町名誉市民の称号を受けられ、そして合併後の平成18年12月、南島原市で初となる名誉市民となりました。清孝さん、清賢さんは、ふるさとを愛し、大事にされてきました。平



兄弟そろって(写真左:古野清孝さん、右:古野清賢さん)

成16年から両氏の私費を投じ、旧南有馬町で古野賞科学技術展を開催。市となった今でも市内小中学生の夏休み期間中の自由研究成果の発表の場となっています。また両氏は、南島原市のふるさと納税制度である「南島原市ふるさと応援寄附」で多額の寄附をされるなど、ふるさとに尽くされてきました。

清孝さんのこれまでのご功績を永遠にたたえますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

「いつも今が始まり」を深く胸に刻みます

南島原市長 藤原 米幸

南島原市名誉市民であり、古野電気株式会社名誉会長古野清孝様の訃報に接し、驚きと痛恨の念に堪えません。

古野名誉会長様には、古野賞科学技術展をはじめ、故郷、南島原市に対し、幾多のご厚情を賜りました。これからも、さらに御指導頂きたく思っております。只々残念でなりません。

創業から今日の、世界のフルノッと呼ばれるような偉大な業績と人格に深く敬意を表しますとともに、生前、古野会長様がお話しくださった「人の知恵は無限であり技術は限りなく進歩する。いつも今が始まり。」のお言葉のとおり、常に未来志向の精神を私たち南島原市民はこれからも、このことを受け継いでまいりたいと思っております。

ご家族と古野電気株式会社の皆様のご心痛をお察し申し上げますとともに、在りし日を偲び心からご冥福をお祈りいたします。